

うるおい

第19号
2024年7月

笹神地区の田んぼ



職員より提供

第19号発行に際してのご挨拶

7月となり、今年も暑い夏を迎えましたが、皆様方はいかがお過ごしでしょうか。

病院の一連の改修工事も無事竣工を迎えました。診療機能を維持しながらの長期に亘る工事で、ご来院いただいた皆様方には、多大なるご不便とご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

その代わりに、外来・放射線科・検査科部分は広々と明るく改修され、CT・MRIも最新の機種に更新し、短時間で高精度な検査ができるようになりました。

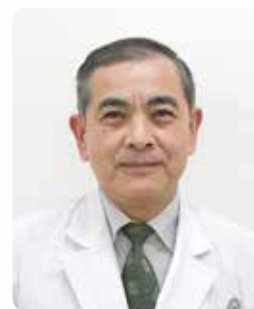
院内は、従前の暗くて狭い環境とは見違えるような、広くて快適な空間に生まれ変わったものと自負しております。実際にご来院いただき、新装となった当院の姿をご覧いただけましたら幸いです。

さて、来る11月に、当院はいよいよ開院50周年を迎えます。当院は、1974年11月に阿賀野病院として開院しましたが、阿賀野市の地域医療のほかに、神経難病を中心とする神経疾患の専

門病院としての役割を担い、2008年11月より脳神経センター阿賀野病院と改称し、診療機能の充実を図ってまいりました。

他院では対応困難な神経難病の患者様の長期療養の場を提供し、脳神経内科専門医により、神経疾患の初期診断から進行期に至るまで、途切れのない医療を提供しています。また、新潟大学脳研究所との密接な連携の下に、神経疾患の臨床研究にも取り組んでいます。

これからも、専門病院としての自覚を胸に、看護部、リハビリ科、薬剤科、放射線科、検査科、栄養科、医療相談員など、多職種と連携して、最新・最良の医療サービスを提供できるよう努力してまいりますので、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



脳神経センター阿賀野病院

院長 近藤 浩

認知症の新しい治療薬レケンビ® (レカネマブ)について

副院長 青木 賢樹



わが国の認知症高齢者の数は、2025年に約700万人(65歳以上の約5人に1人)に達すると見込まれています。今や認知症は誰もが関わる可能性のある身近な病気です。そんな中、新しい認知症治療薬「商品名：レケンビ®(レカネマブ)」が2023年12月に国内で発売されました。従来の抗認知症薬が症状緩和を目的とするのに対し、レカネマブは、病気の根本的な原因を改善するための疾患修飾薬(治癒可能な薬)としてアルツハイマー病の進行を抑制することが期待されています。

①発症メカニズム

アルツハイマー病の病理には、「アミロイド仮説」という説があります。アミロイドβというタンパク質が脳内に蓄積することで神経細胞が壊れ、脳が委縮し、認知症を発症すると考えられています。また、アミロイドの蓄積は発病の20年前から沈着してくることも知られており、すでに発症しつつある認知症状態で、薬を投与する事の意味が少し問題にもなります。

②薬の作用・効果

レカネマブは、脳細胞に蓄積したアミロイド蛋白を標的とする抗体薬で、抗体とくっついたアミロイド蛋白を免疫細胞のミクログリアが認識して、アミロイド蛋白ごと貪食して除去し減少させるという仕組みです。(図1)

臨床試験では、2週間に1度18か月間にわたるレカネマブの投与により、脳内に溜まっていたアミロイドβが顕著に減少し、さらに記憶・判断力・介護状況・社会活動を含む全般臨床症状の悪化が27%抑制されました。これは、約7.5か月進行を遅らせる効果に相当します。また、自立して生活する能力についても37%の臨床的有効性が認められました。

③治療対象者

残念なことに、全ての認知症患者に投与できる薬はありません。投与できる方は、非常に軽度の方のみが適応となっており、認知機能障害はあるが日常生活は自立している、あるいは服薬管理や金銭管理等の障害はあっても身の回りのことは自立している状態がひとつの目安となります。また、アミロイドPET検査か腰椎穿刺で脳内にアミロイドの存在を確認することが必要です。

④副作用・リスク

アミロイドを除去する時に脳内に免疫反応が起き、副作用として約5%～10%程度にアミロイド関連画像異常(ARIA)が指摘されています。ARIAとは、脳の浮腫や微小な出血などを指します。ARIAはアルツハイマー認知症患者で自然発現することがあり、多くは無

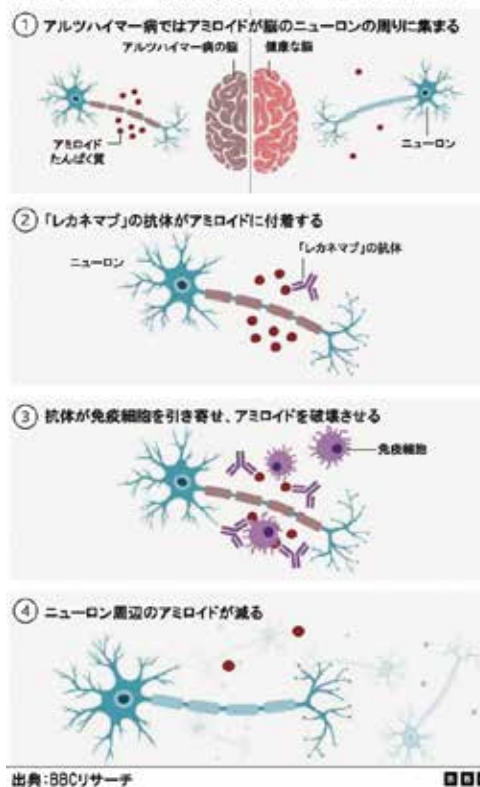
症候性ですが、まれに重篤な症状が発現する場合があります。脳MRIなど画像検査を頻繁に行い、脳内の変化を早めに見つけて、十分注意していく必要があります。

⑤治療条件

レケンビの投与条件には、ARIAのリスクに適切に対応できることが必須要件です。2023年12月に厚生省が出した最適使用推進ガイドラインでは、レケンビを投与できる医師や医療機関の要件を定めています。医師に対しては、早期診断に加えて、ARIAの画像所見の判断などができること(関連学会の専門医の認定を受けている、ARIAに関するMRI読影の研修を受講している等)医療機関には、診断や経過フォローに必要なMRI検査やPET検査または脳脊髄液検査等の実施体制を整えていることが必要です。

当院でもレケンビを投与できるように準備を進めている途中です。医師としての要件はクリアしており、施設としても脳MRIを直ちに撮れるように手配しています。効果のある薬ならば注意深く使用し、少しでも症状が改善して、幸せな暮らしが長く続くように貢献したいと考えています。

図1:アルツハイマー病治療薬「レカネマブ」の仕組み



改修工事完了のお知らせ

当院では、院内設備の老朽化対策とより良い環境整備のため修繕工事を行ってまいりました。この度、工事が全て完了した事をご報告しますとともに、利用される皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。



外来トイレ

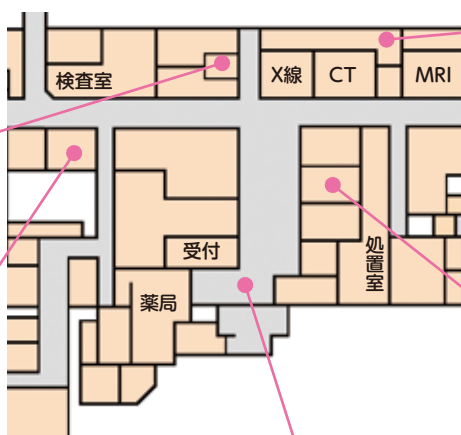


生理検査室

CTは最新技術で
X線被爆を抑え、
患者さんに優しい検査が
実施できます。



64列マルチスライスCT



放射線科: 操作室



診察室



待合室



待合室や診察室、廊下の幅が広くなり、
全体的に明るい雰囲気になりました。

リハビリテーション外来を第3診察室とし、処置室・検査室なども移転しました。また、新しい検査機器を導入するなどし、機能の充実を図りました。

この写真だけでは十分にお伝え出来ませんので、病院へお越しの際に、ぜひご覧ください。

外来のご案内 脳神経内科・内科・リハビリテーション科

受付時間 午前8時45分～11時30分(休診日 土・日・祝)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
第1診察室	近藤 浩	横関 明男	青木 賢樹	近藤 浩	佐藤 達哉
第2診察室	豊島 靖子	佐藤 達哉	(近藤 浩)	豊島 靖子	青木 賢樹
第3診察室					工藤 由理

在宅介護のワンポイントアドバイス③ 食べやすい食事

栄養科 管理栄養士 丸山 伶美

今回は、噛む力や飲み込む力が低下してきた方に向けた食事のポイントを紹介します。

食べづらくなって食事が苦痛になると、食事量が減り、栄養が偏ってしまいます。それにより体力が低下し病気の悪化にもつながります。食材の選び方や調理にひと工夫することで、まだまだご自宅でも食事を楽しむことができますので、ぜひ参考にしてみてください。

飲み込みにくい食べ物(例)

パサつきやすいもの	ばらけやすいもの	むせやすいもの	はりつきやすいもの
パン、蒸した芋類	ご飯粒、そばろ、かまぼこ	水、お茶、味噌汁	のり、わかめ、青菜類

飲み込みやすくするポイント

- ① 液体にはとろみをつけて、むせを防ぐ
- ② パンは牛乳やスープに浸すなど、適度な水分を含ませてパサつきを防ぐ
- ③ とろみをつけたり、あんをからめたり、マヨネーズなどで和えるなど、口の中でばらけるのを防ぐ
- ④ つぶす、一口大に切るなど食べやすい形状にする
- ⑤ やわらかく煮込む
- ⑥ ゼラチンなどで固めて、のどごしをよくする
※寒天はばらけやすいので注意

食材別おすすめメニュー

食材	メニュー
魚介類(白身魚・鮭)	煮つけ ・ あんかけ ・ マヨネーズ焼き
肉類(ひき肉)	ハンバーグ ・ そぼろあんかけ ・ つくね
卵・大豆製品	温泉卵 ・ 卵豆腐 ・ 茶碗蒸し ・ 湯豆腐
乳製品	ヨーグルト ・ ムース ・ プリン
野菜・イモ類	煮物 ・ ポテトサラダ ・ とろろ芋

※ 大根・かぼちゃ・にんじん・白菜・玉ねぎ・キャベツなど加熱して柔らかくなる食材がおすすめ



市販品や介護食の活用もおすすめです。

このようなマークがついているものは「ユニバーサルデザインフード」といい、目的に合った食品を選ぶ目安のひとつとなります。状態に合わせた食べやすい物を選びましょう。



医療法人潤生会 脳神経センター阿賀野病院 広報誌

うるおい

第19号
2024年7月

■発行日 2024年7月7日

■発行人 院長 近藤 浩 ■編集 広報誌事務局

〒959-2221 新潟県阿賀野市保田6317番地15

脳神経センター阿賀野病院

電話 0250-68-3500 FAX 0250-68-3690

URL <http://www.agano.or.jp> メール info@agano.or.jp

広報誌「うるおい」へのご意見・ご感想は
広報誌事務局までお寄せください。

やっとな改修工事が終わりました！工事をしている間は粉塵が舞い、掃除が非常に大変でした。そんな中、とても便利だったのが黄色い掃除用クロスです。アルコール除菌クロスなどで机の粉塵を拭き取ると白い筋になり、余計に汚れが目立ってしまいました。その掃除用クロスで拭くときれいに粉塵が取れるのです。このような便利グッズがあると知らずに過ごしていたと思うと、思いがけない発見でした。

今回のうるおいは、前号のパーキンソン病に続き、アルツハイマー病の新薬についての解説でした。半年の内に2件もの新薬の話があり、医療の世界も日々新しい発見があるものだと思います。

(広報誌事務局)

編集後記